

2025年3月期 決算説明資料



クオールホールディングス株式会社

2025年5月9日

東証プライム：証券コード 3034

The Prime Market of the Tokyo Stock Exchange
3034



第一三共エスファの連結子会社化によって医薬品製造販売事業の規模が拡大したことに伴って、2025年3月期第1四半期より報告セグメントを変更

<変更の主なポイント>

- ① 事業活動の実態をより適切に表すため、**セグメント名称を変更**
- ② 情報開示を拡充することを目的として、「**製薬事業**」を新設
（「医療関連事業」に従来区分していた医薬品製造販売事業を「製薬事業」に移管）

旧報告セグメント

保険薬局事業
医療関連事業



新報告セグメント

薬局事業	・保険薬局の経営
BPO事業	・CSO事業 ※CSO:Contract Sales Organization の略 ・CRO事業 ※CRO:Contract Research Organization の略 ・医療系人材の紹介・派遣 ・医療系出版
製薬事業	・医薬品製造販売の運営

※BPO:Business Process Outsourcing の略

INDEX

目次

- I 決算概要
- II クオールグループの
2026年3月期事業計画
- III 重点施策
- IV サステナビリティ経営の推進

I

決算概要

【増収増益】 創業以来最高の売上・営業利益/経常利益

連結業績

- ・ 第一三共エスファが2025年3月期第1四半期より連結子会社化(株式保有割合51%)となり、売上及び営業利益/経常利益は過去最高

薬局事業

- ・ 増収減益
- ・ 前期に実施したM & Aや新規出店の寄与、在宅・施設調剤の推進により、受付回数が増加
- ・ 医療DXの推進のために医療DX推進体制の整備、選定療養制度が開始され後発医薬品の使用割合UP

BPO事業

- ・ 増収増益
- ・ 薬剤師の紹介派遣に関して、社員の採用強化及び生産性の向上により、成約件数が増加
- ・ 特に薬剤師紹介業が好調のため利益率UP

製薬事業

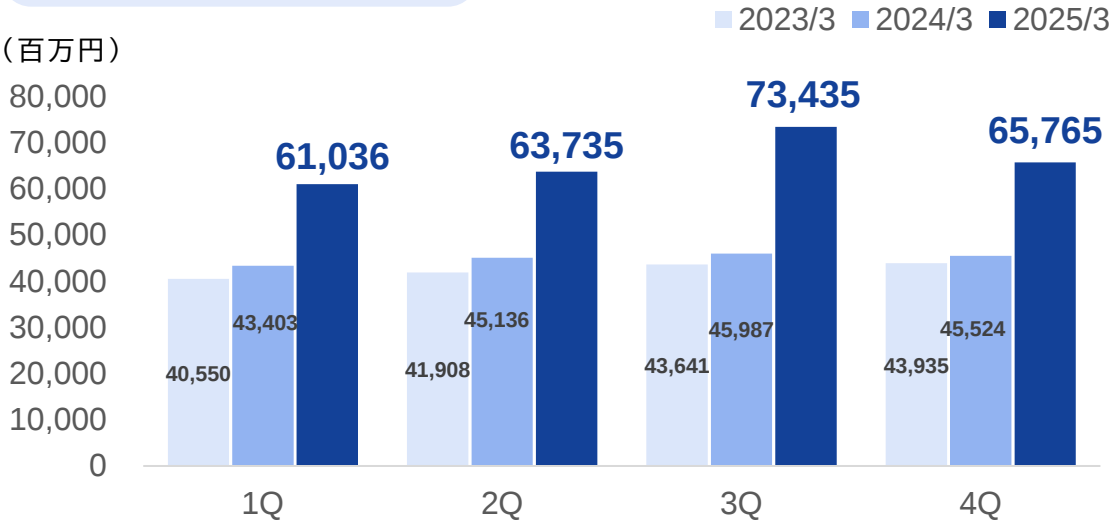
- ・ 第一三共エスファが2025年3月期第1四半期より連結子会社化(株式保有割合51%)
- ・ AG新製品3成分が発売(第一三共エスファ、2024年12月)、売れ行き好調

2025年3月期 連結業績ハイライト

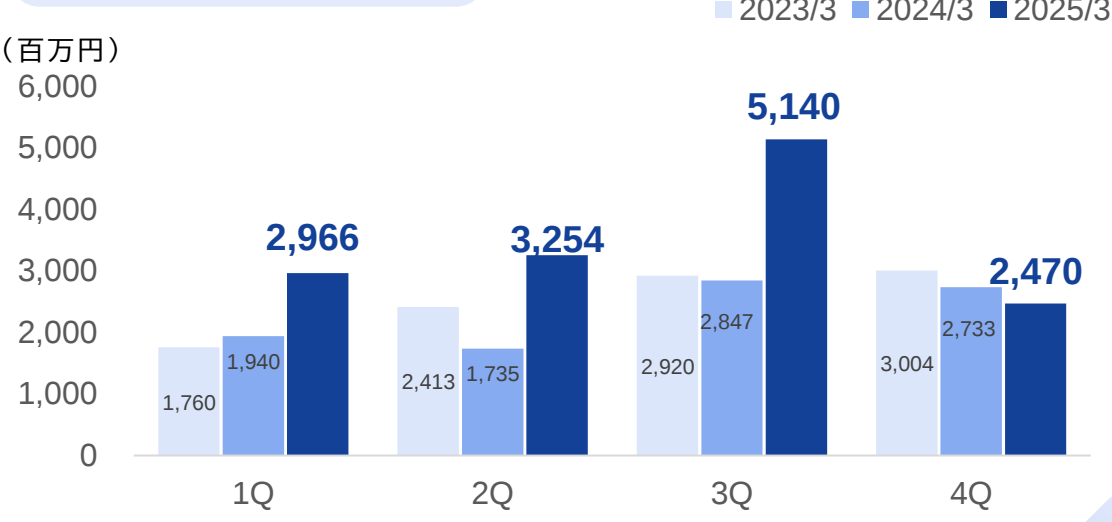


(単位:百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	前期比		達成率
			増減額	増減率(%)	
売上高	180,052	263,972	83,920	46.6%	97.8%
営業利益	8,324	13,465	5,140	61.8%	89.8%
経常利益	9,256	13,831	4,574	49.4%	91.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,880	5,164	284	5.8%	103.3%
1株当たり 当期純利益(円)	131.11	137.97	6.8	5.2%	—

売上高四半期推移



経常利益四半期推移



連結損益計算書



(単位: 百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減	増減率(%)
売上高	180,052	263,972	83,920	46.6%
売上原価	156,802	224,916	68,113	43.4%
売上総利益	23,249	39,056	15,806	68.0%
販管費	14,925	25,591	10,665	71.5%
営業利益	8,324	13,465	5,140	61.8%
利益率	4.6%	5.1%	—	—
経常利益	9,256	13,831	4,574	49.4%
利益率	5.1%	5.2%	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,880	5,164	284	5.8%
利益率	2.7%	2.0%	—	—

連結貸借対照表



(単位:百万円)	2024.3.31	2025.3.31	増減
流動資産	52,690	60,348	7,657
現金及び預金	27,282	26,727	△ 554
固定資産	65,089	99,321	34,231
有形固定資産	16,281	18,141	1,859
無形固定資産	33,136	70,338	37,202
投資その他の資産	15,670	10,841	△ 4,829
資産合計	117,779	159,669	41,889
流動負債	38,823	74,202	35,379
固定負債	26,118	23,328	△ 2,789
負債合計	64,941	97,531	32,589
有利子負債	31,882	41,285	9,403
純資産	52,837	62,138	9,300
自己資本	52,789	57,123	4,333
負債純資産合計	117,779	159,669	41,889

	(単位:百万円)
流動資産	+ 7,657
受取手形、売掛金及び契約資産	+ 4,467
原材料及び貯蔵品	+ 3,819
固定資産	+ 34,231
営業権	+ 29,366
のれん	+ 7,261
関係会社株式	△ 7,714
流動負債	+ 35,379
短期借入金	+ 13,500
買掛金	+ 8,616
返金負債	+ 7,082
固定負債	△ 2,789
長期借入金	△ 4,274
純資産	+ 9,300
非支配株主持分	+ 4,966
利益剰余金	+ 3,958

- ・ 製薬事業における新製品発売に伴い、
営業権が増加(2024年12月、AG3成分7品目)

キャッシュフロー計算書



(単位:百万円)	2024.3.31	2025.3.31
営業活動による キャッシュ・フロー	13,533	12,593
投資活動による キャッシュ・フロー	△13,155	△ 20,360
フリーC/F	377	△ 7,767
財務活動による キャッシュ・フロー	7,969	7,201
うち配当金の支払額	△1,205	△ 1,206
現金・現金同等物の 増減額	8,347	△ 565
現金・現金同等物の 期首残高	18,596	26,944
現金・現金同等物の 期末残高	26,944	26,378

(単位:百万円)		
営業活動によるキャッシュフロー	△	940
税金等調整前当期純利益	+	3,979
投資活動によるキャッシュフロー	△	7,204
無形固定資産の取得による支出	△	18,460
財務活動によるキャッシュフロー	△	768
短期借入金の純増額	+	13,408
長期借入れによる収入	△	13,300

セグメント概況

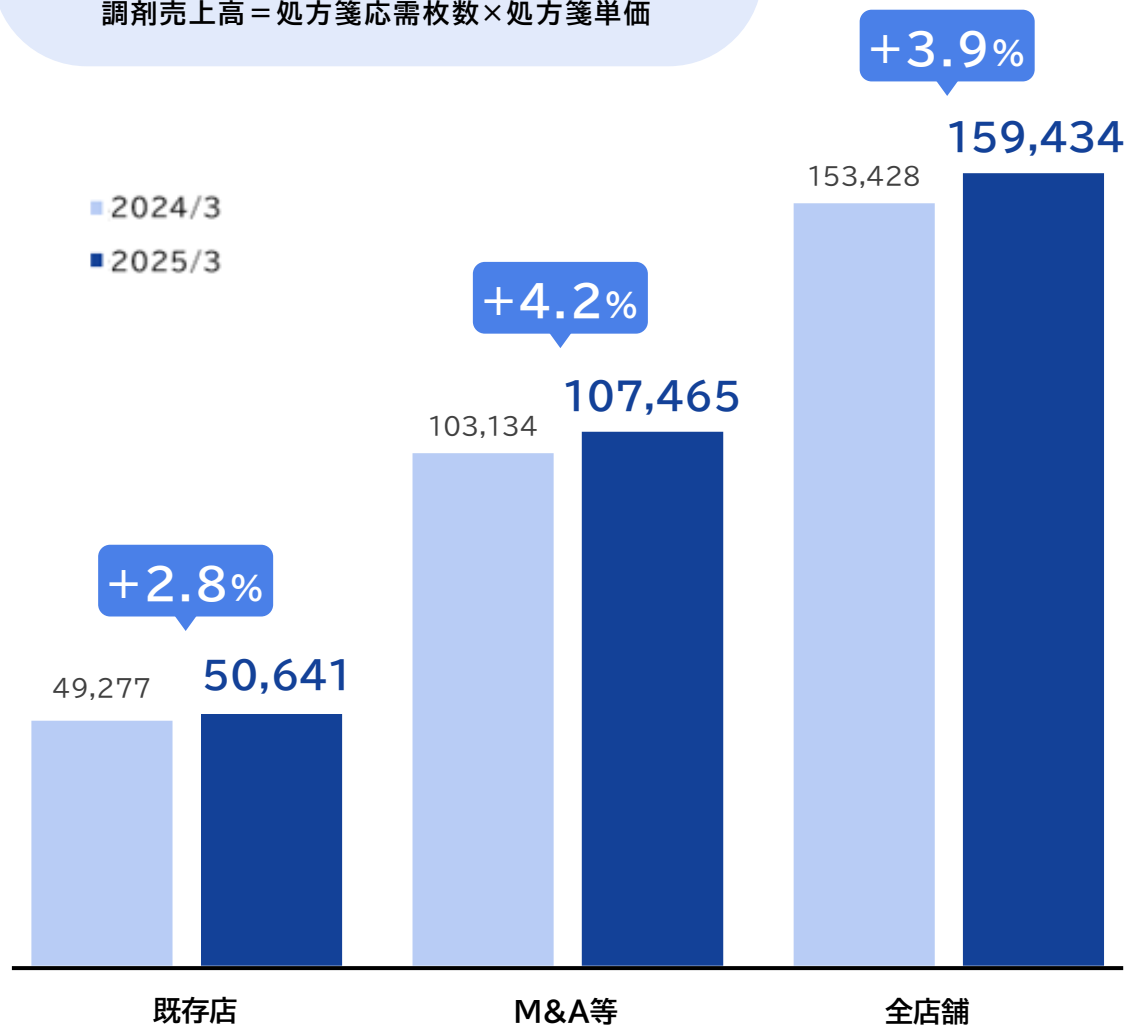


(単位:百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	前年同期比 増減率
薬局事業売上高	165,099	171,641	4.0%
セグメント利益	10,730	10,028	△6.5%
利益率(%)	6.5%	5.8%	
BPO事業売上高	13,330	13,603	2.0%
セグメント利益	1,549	1,706	10.1%
利益率(%)	11.6%	12.5%	
製薬事業売上高	1,621	78,726	—
セグメント利益	△ 412	5,272	—
利益率(%)	△ 25.5%	6.7%	

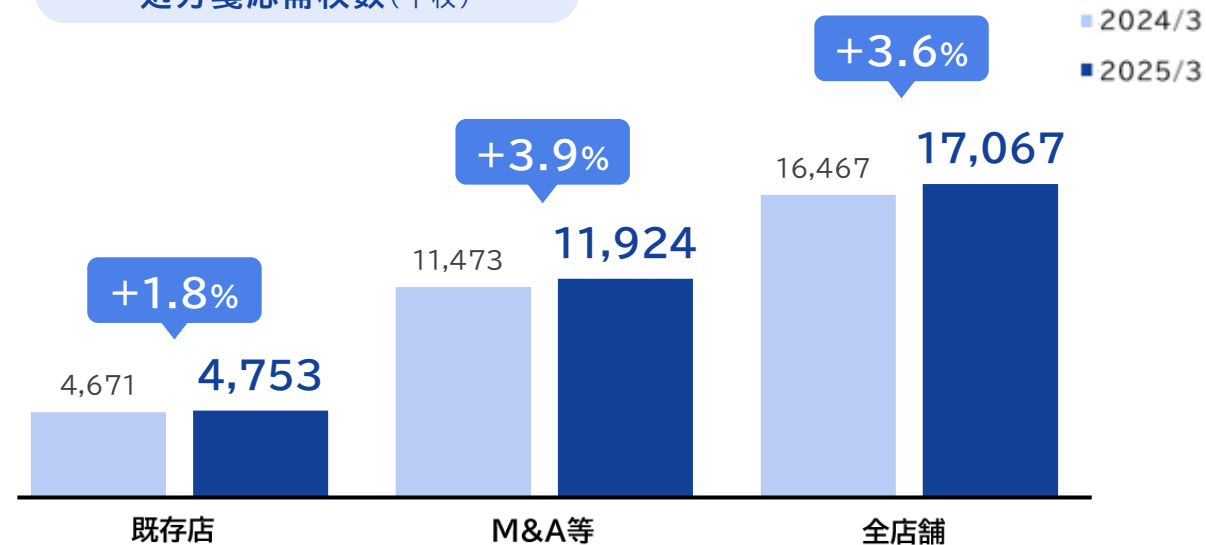
※第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、前連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分により作成したものを記載しております。なお、前連結累計期間のセグメント情報には、第1四半期連結会計期間より連結子会社化している第一三共エスファ株式会社の数値は含まれておりません。

調剤売上高(百万円)

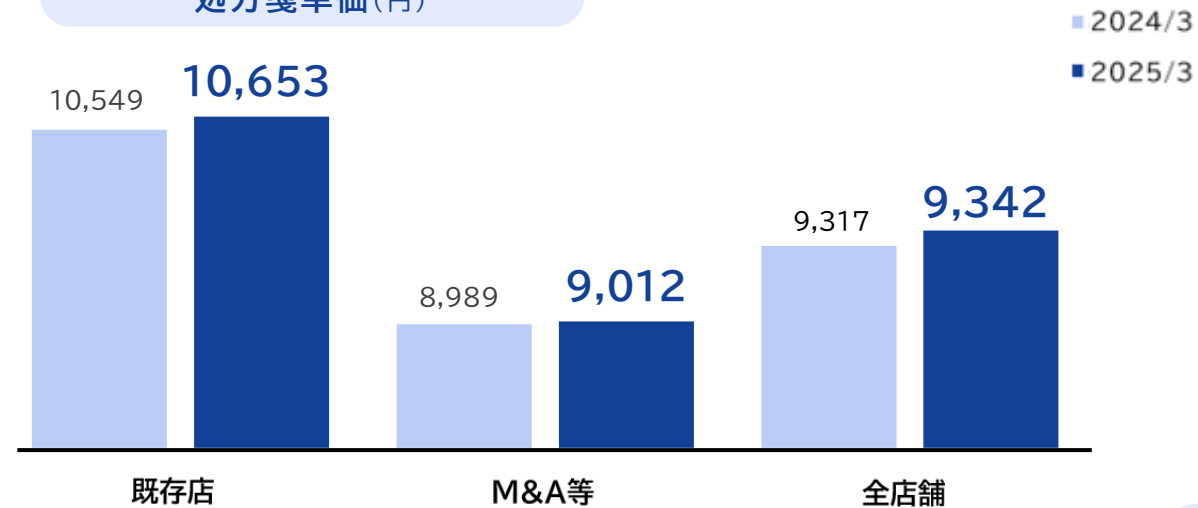
調剤売上高 = 処方箋応需枚数 × 処方箋単価



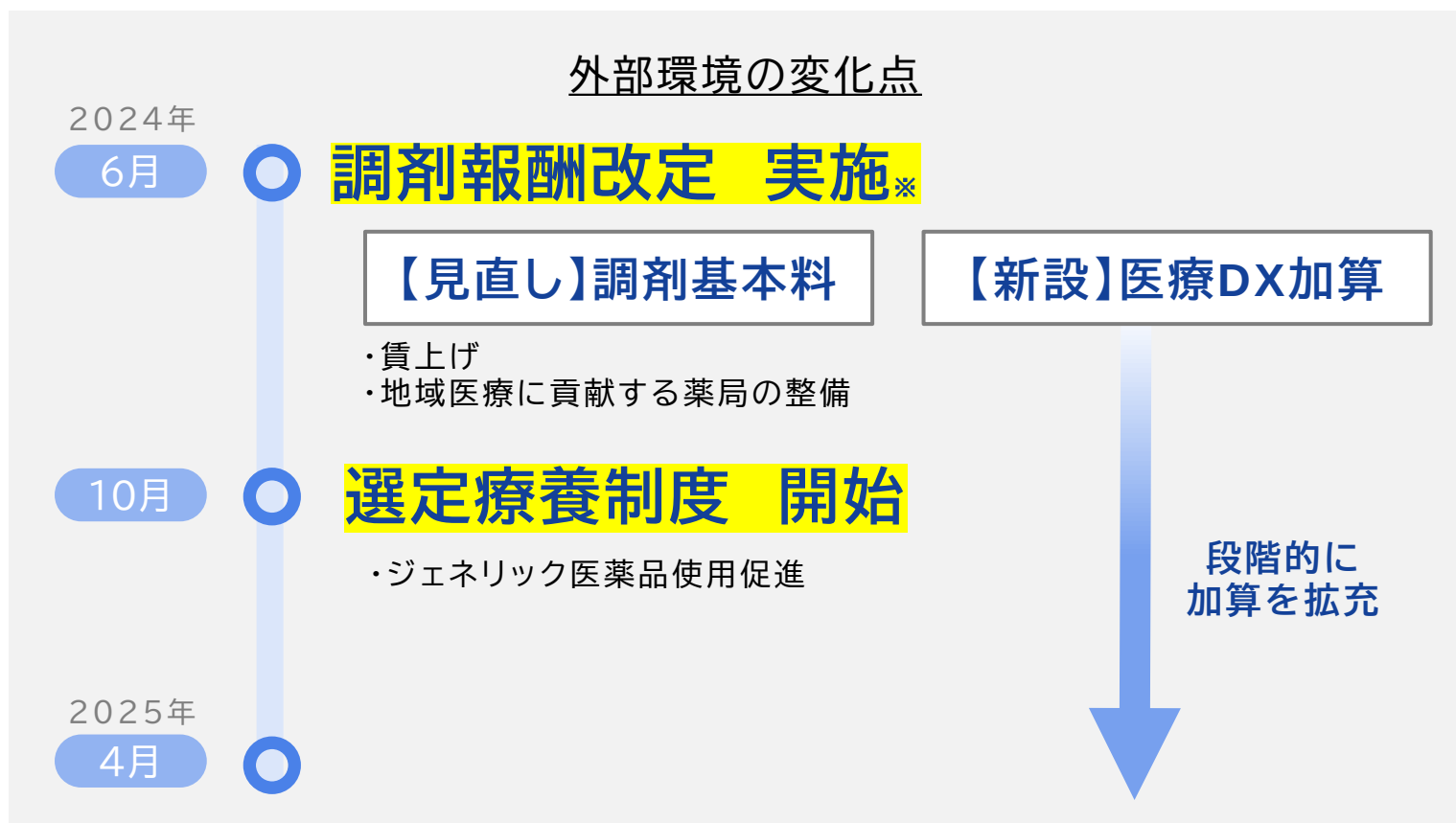
処方箋応需枚数(千枚)



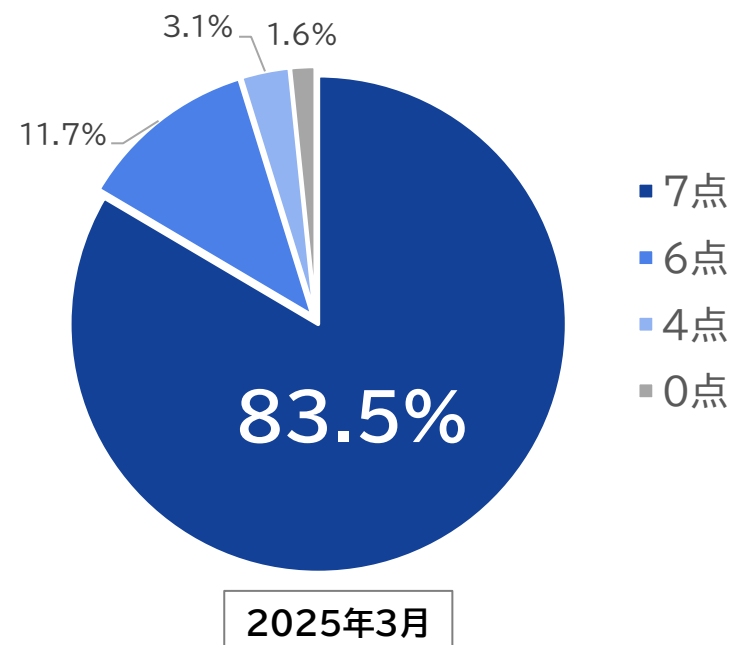
処方箋単価(円)



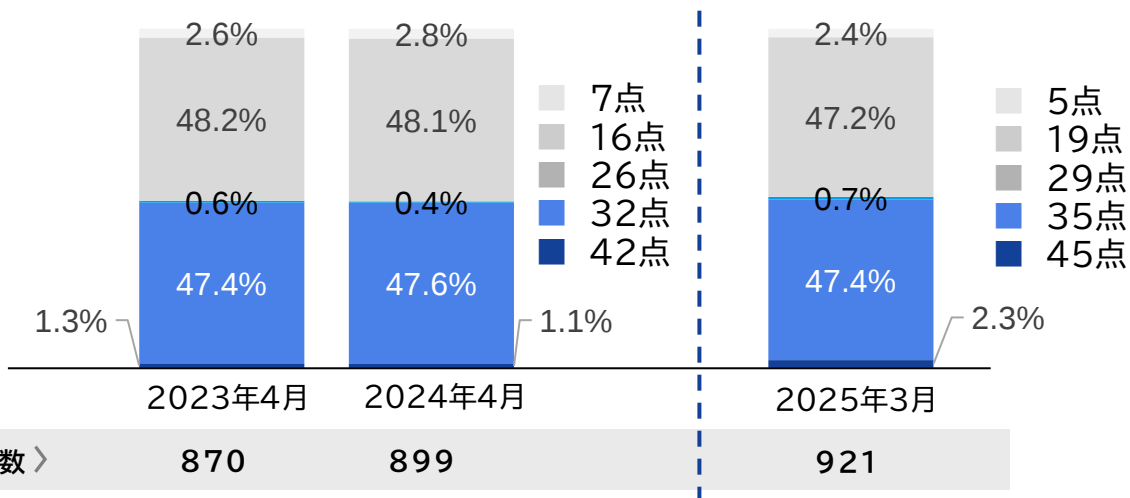
国の方針に則り、当社グループ薬局全体で対応を推進



医療DX推進体制整備加算 店舗割合

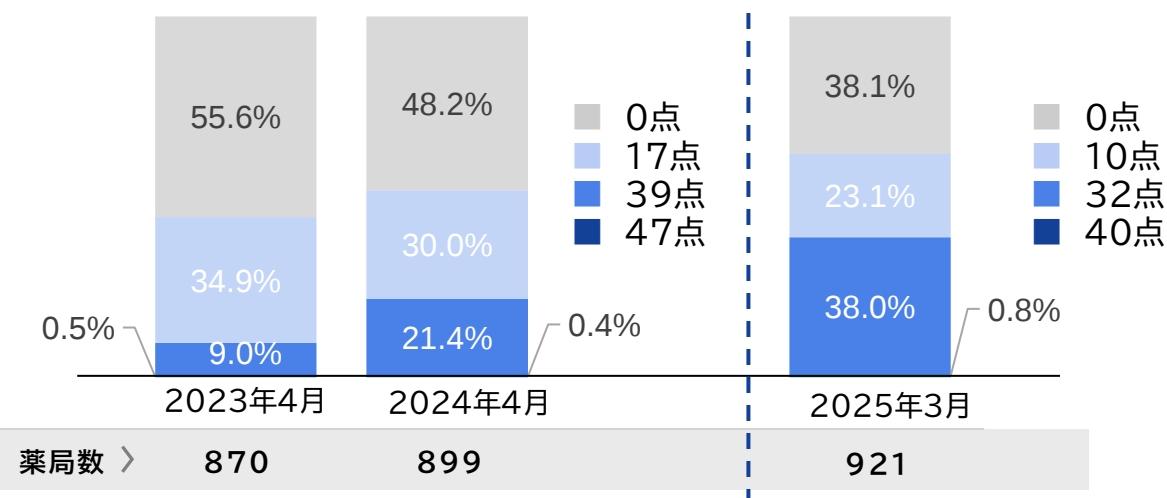


調剤基本料 店舗割合

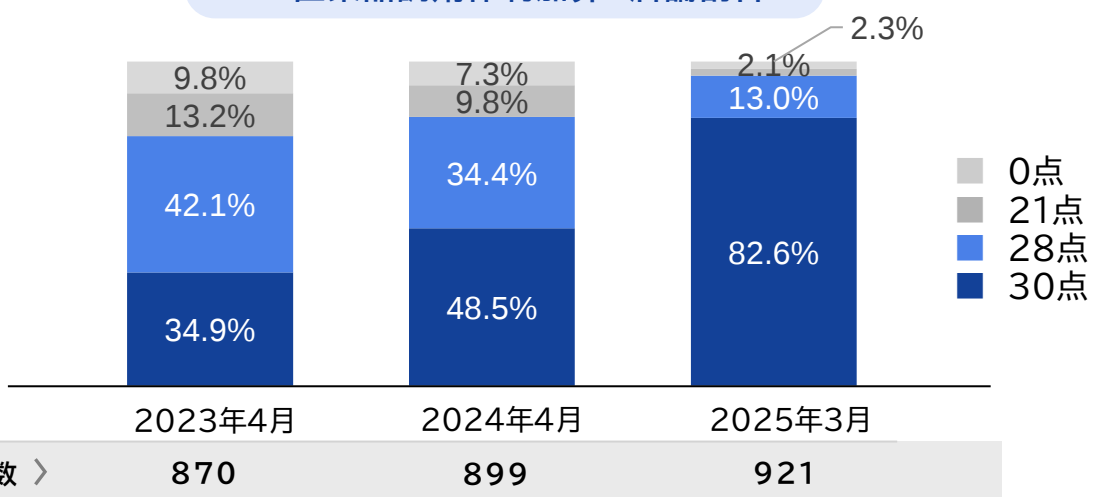


地域支援体制加算 店舗割合

(連結ベース)



GE医薬品調剤体制加算 店舗割合



GE変更率(数量ベース)

91.4%
(2025年3月)

Ⅱ

クオールグループの 2026年3月期 事業計画



クオールグループ 2026年3月期計画【連結】



【売上高】
2,800億円

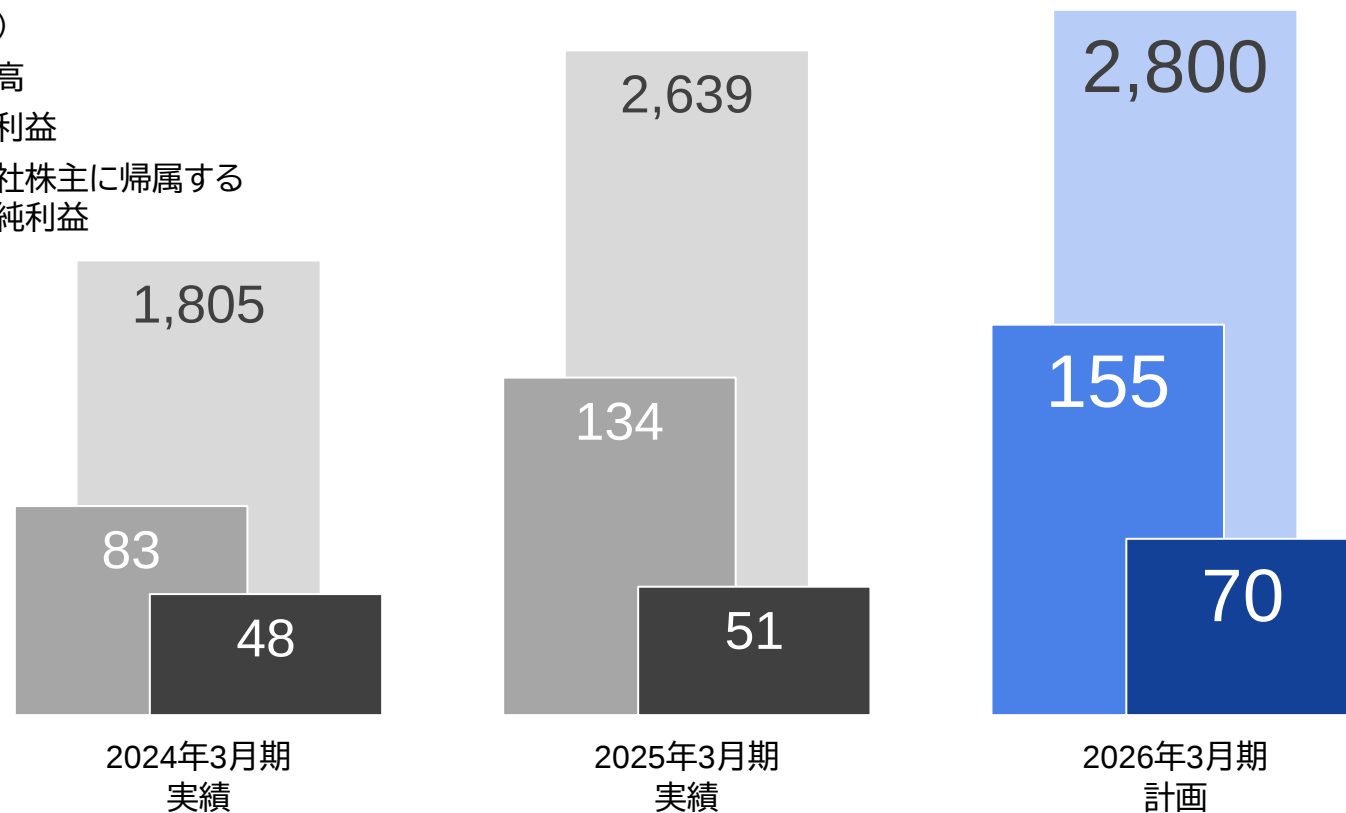
【営業利益】
155億円

【当期純利益】
70億円

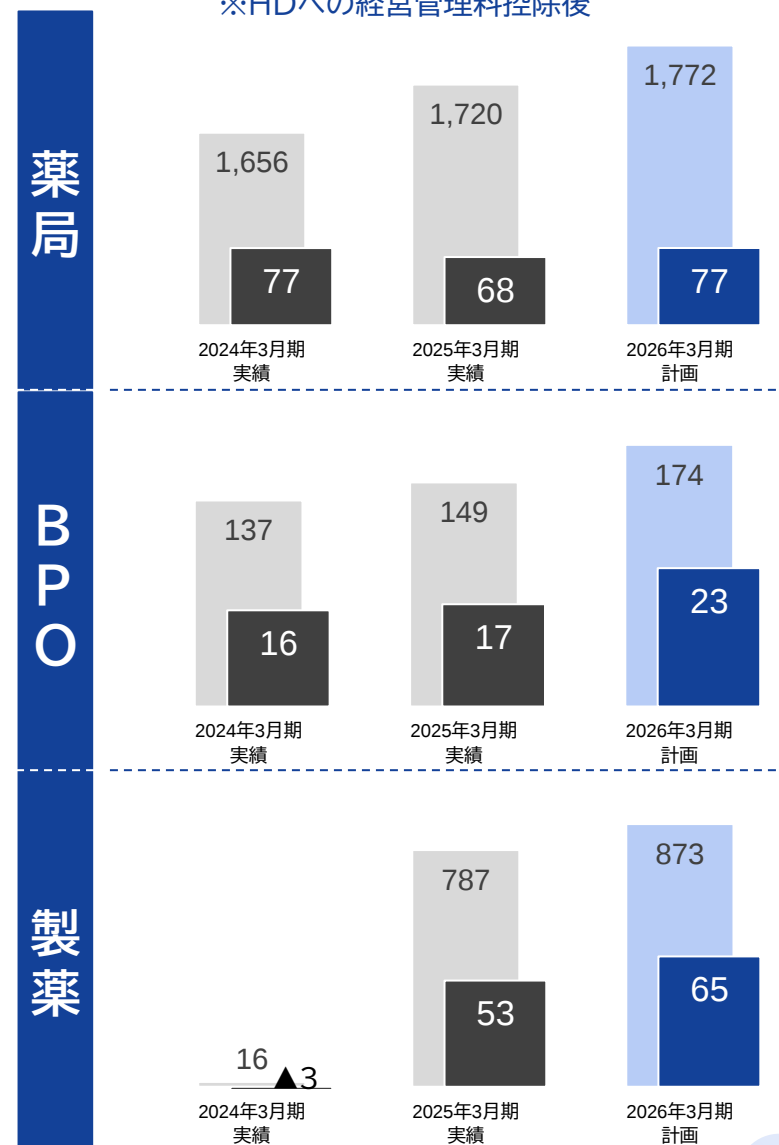
※2025年11月頃に中期経営計画発表予定

(単位:億円)

■ 売上高
■ 営業利益
■ 親会社株主に帰属する
当期純利益



※HDへの経営管理料控除後



クオールグループ 2026年3月期方針【薬局事業】

売上高	営業利益
1,772億円	77億円

※HDへの経営管理料控除後



より質の高い医療を

専門性

- ✓技術料の算定拡大
 - ・かかりつけ ・対人5項目
 - ・地域支援 ・ジェネリック
 - ・連携強化 ・医療DX
- ✓認定薬局推進 (健康サポート薬局、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局)
- ✓特定機能分化への対応

より多くの患者さまに

利便性 (≡受付回数増加)

- ✓クオールおくすり便 (LINE処方箋送信 & オンライン服薬指導)
- ✓オンライン薬局 (クオールどこでも薬局)
- ✓6つのかかりつけ運動
- ✓健康事業拡大 

持続的に提供する

収益性 (≡持続性・継続性)

- ✓店舗の生産性向上
 - ・DX(新型電子薬歴導入など)
 - ・適正人員
 - ・入力サポートPJ拡大
- ✓ゼロベースでの経費見直し

在宅推進

- ✓大手介護施設PJ完了
- ✓介護医療連携会拡大
- ✓収益性、生産性向上(専門店舗以外での在宅キャラバン検討)

クオールグループ 2026年3月期方針【BPO事業】

売上高	営業利益
174億円	23億円

※HDへの経営管理料控除後



アポプラスステーション

CSO※ ▶【競争力強化】

CMR※の増員

- ① 成長領域への営業拡大
- ② 人材紹介会社との業務提携
- ③ 新規ビジネススキーム構築

CRO※ ▶【差別化戦略】

CRA※の増員、新規案件増加

- ① 先進的IT技術獲得(協業・M&A)
- ② 新規顧客・領域開拓(食品分野)
- ③ 研修によるセルフブランディング

メディカルクオール

高利益体質への転換

----- 重点施策 -----

- ① 収益基盤事業の再興
 - ✓高収益制作案件の獲得強化
 - ✓新規月刊誌の創刊と販売拡大
 - ✓新体制による進化(営業・制作)
- ② 成長事業の更なる拡大
 - ✓コンベンション事業
 - ✓コンプライアンス事業
 - ✓新たな事業展開の模索
- ③ グループ内連携の推進
 - ✓イベント企画運営/資材等制作
 - ✓営業活動連携
 - ✓SPLENDED早期シナジー創出

アポプラスキャリア

若手育成による
持続可能な成長力醸成

----- アポプラスキャリア -----

- ① 育成担当を配置し仕組み化
 - ② 薬剤師スポット展開による
需要掘り起こし
 - ③ 顕在層&潜在層の集客拡大
- オンコール -----
- ① スポット・受託事業の拡大
(自動マッチングの普及)
 - ② 労働組合からの
健康診断受託件数増加
 - ③ 転職支援事業の拡大
(連携先との実績拡大・広告費投入)

藤永製薬

経営の安定化と持続的な成長基盤の構築

① 売上・利益の拡大

- ✓ 体外診断キット拡大(OTC)
- ✓ 既存品強化(不採算品再算定対応)
- ✓ 構造改革(開発型移行、生産性アップ)

② 成長ドライバーへの投資

- ✓ 新製品の開発加速
- ✓ 開発パイプライン拡充(感染症領域)
- ✓ 開発体制強化(組織強化、第一三共エスファとの連携)

③ CSRを意識した工場運営

- ✓ 製造ラインへの投資(修繕、老朽化機器更新)
- ✓ 品質対応(製法改良、製造ライン整備)
- ✓ 薬事法令絶対遵守
- ✓ 安定供給・調達

④ コンプライアンス遵守

- ✓ 法令遵守意識の浸透、法令遵守

第一三共エスファ

① 更なる売上拡大

- ✓ クオールGr連携強化
- ✓ 卸連携強化
- ✓ 新製品・課題品目のシェア獲得・拡大
- ✓ MR営業先の選択と人的リソース集中
- ✓ 卸連携の深化による成果拡大

② 第一三共エスファが目指すMR像の確立

- ✓ 患者さま・医療関係者目線の情報提供
- ✓ 医療関係者からの評価向上
- ✓ 卸との綿密な情報交換

③ 製品ラインナップ拡充

- ✓ AGラインナップの拡充
- ✓ Only one product開発の推進強化
- ✓ 薬局事業と協働でのCS向上

④ 経営基盤の更なる強化

- ✓ Quality Cultureの醸成・定着
- ✓ 品質の確保
- ✓ 原価率の改善
- ✓ DX戦略の実行
- ✓ スタンド・アローン化への対応

第一三共エスファ 2025年3月期 計画比較



第一三共エスファ 2025年3月期 計画比較

	計画	実績	差異
売上高	825 億円	770 億円	▲55 億円
営業 利益	70 億円	56 億円	▲14 億円



要因

✓既存品 売上計画比92.2%

✓新製品発売延期

✓新製品好調等による販売経費増加

第一三共エスファ 2025年3月期 前年比較



第一三共エスファ 2025年3月期 前年比較

	2024年 3月期	2025年 3月期	増減
売上高	712 億円	770 億円	+57 億円
営業 利益	64 億円	56 億円	▲8 億円



要因

- ✓新製品売上が薬価改定影響を上回る
- ✓薬価改定による既存品原価率の悪化
- ✓統合コスト

売上増加

- ✓ 2025年3月期 新製品が通期で寄与
- ✓ 2026年3月期 新製品2～3製品

製品原価低減

- ✓ 卸政策・流通経費見直し
- ✓ パートナー企業との交渉
- ✓ 不採算品整理
- ✓ 薬価改定対策(仕切価対策)

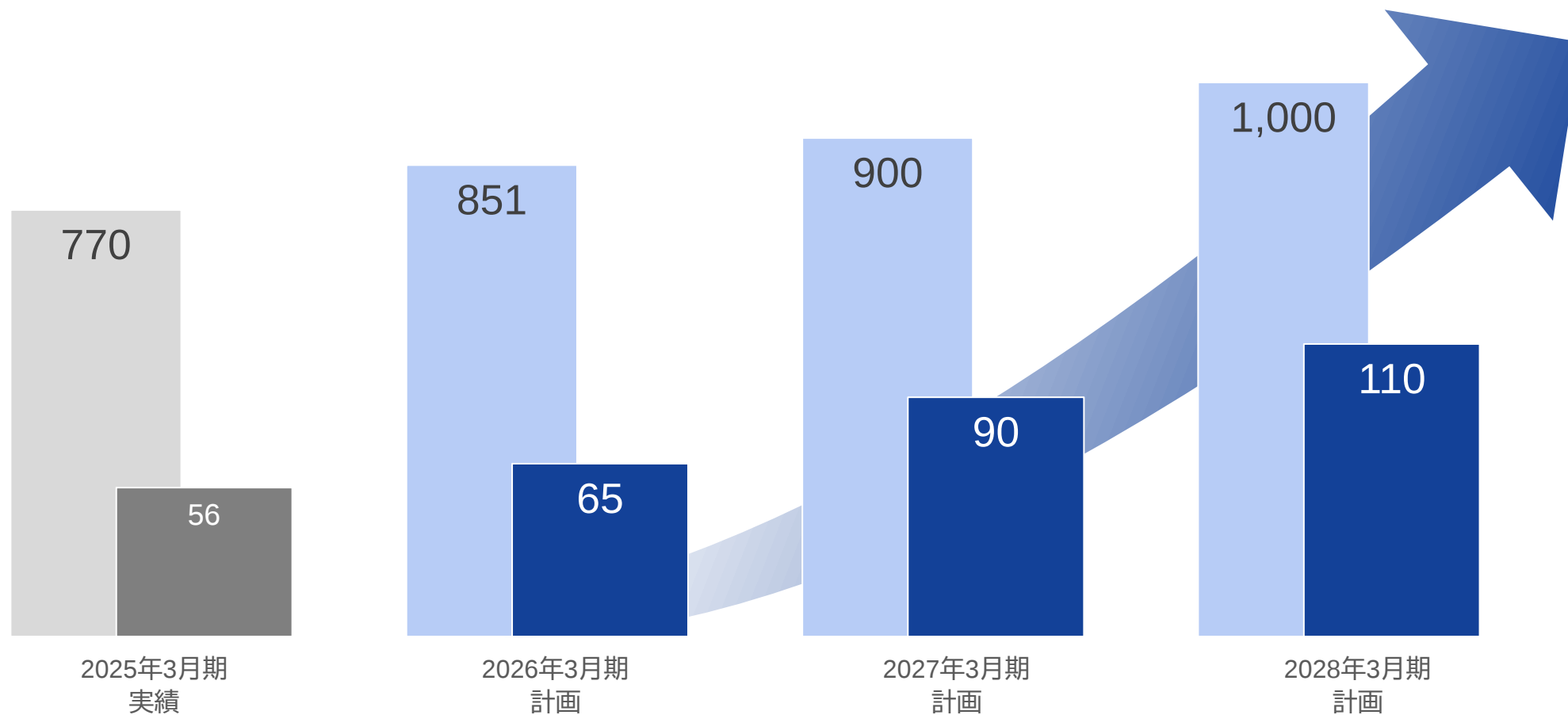
コスト適正化

- ✓ システム費用等追加になる独立化コストの最適化
- ✓ 全ての経費のゼロベースでの見直し

✓ 2026年3月期以降は新戦略のもと、
新製品と原価・コスト改善の両輪で増収増益を目指す

(億円)

売上高
営業利益



Ⅲ 重点施策



グループ成長戦略の全体像



総合ヘルスケアカンパニー

研究
開発



製造



販売



病院
薬局



患者
さま



第一三共エスファ株式会社



藤永製薬株式会社



メディカルクオール株式会社

APO PLUS STATION



アポプラスキャリア



クオール薬局グループ
Quality Of Life

APO PLUS STATION

調剤

安定売上・安定収益

製薬

売上成長・高収益



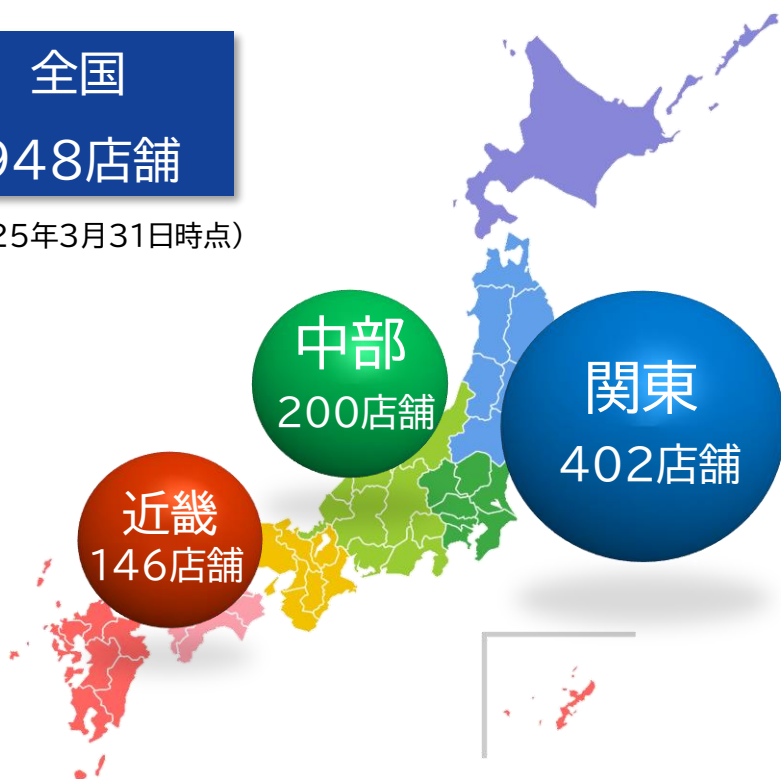
BPO

高収益

引き続き調剤薬局のM&Aを実施し
東名阪エリアを中心に規模拡大

全国
948店舗

(2025年3月31日時点)



	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3 累計
新店	20	17	18	16	15	21	16	18
M&A	14	50	39	18	15	48	17	26
売店	1	0	3	0	1	1	2	1

大型商業施設内への出店



(クオール薬局セブンパーク天美店)

異業種との協業により、オンラインによる処方箋応需の取組みを推進

外部環境

医療費削減のため、
国は医療DX推進を推進
規制緩和※も進む

ニーズ



スマートフォンに不慣れな
シニア層



医療アクセスに課題を抱える
遠隔地・地方在住者



忙しい共働き世帯



薬局事業



通信事業

患者さまにとってより便利で身近な薬局サービスへ

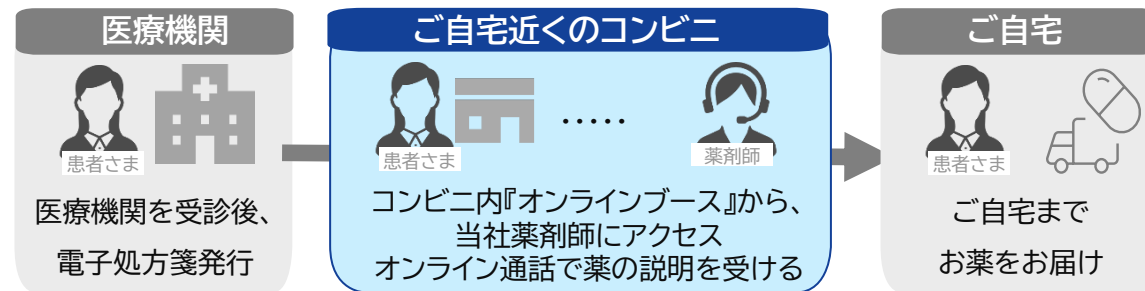
完全オンライン型

当社初のオンライン専門薬局
『クオールどこでも薬局』



実店舗型 ※実証段階

近くのコンビニ から 遠くの薬剤師 へアクセス
さらに薬局サービスを身近に



健康・未病領域での新規事業 (サントリーウェルネス他との協業)

外部環境

- 医療費削減のため、国はセルフメディケーションを推進
- 『スイッチOTC』迅速化に向けて規制改革の議論進む

スイッチOTCとは

処方箋から市販薬へ転用された医薬品のこと

医療用医薬品



スイッチ

一般用医薬品



医療
領域

予防
分野

QOL ウォール薬局グループ
Quality Of Life



SUNTORY
SUNTORY WELLNESS



順調に売上拡大
(前年比+50%増)

高度な薬剤師教育をもとに、 医薬品のスペシャリストとして在宅事業を推進

高度な薬剤師教育

専門教育

薬剤師としての技術向上・
専門知識の習得

人財教育

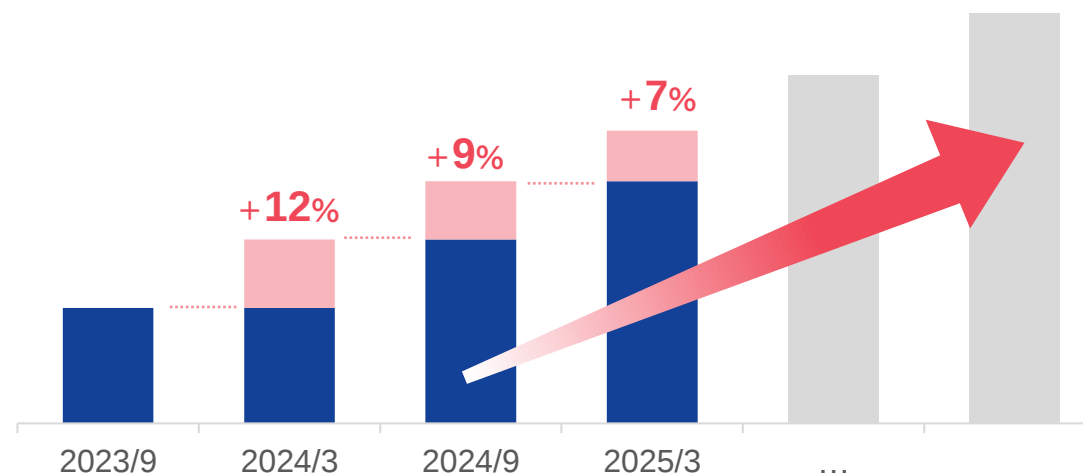
対人業務における
対応力の向上



在宅事業の推進

全国約950店舗のドミナントとクオール独自サービスで、
高付加価値な在宅医療サービスを提供

在宅訪問件数※の推移



※介護保険における居宅件数

外部環境

医療系人材の
数が不足高齢化進行による
患者さま急増医療機関軒数の
停滞

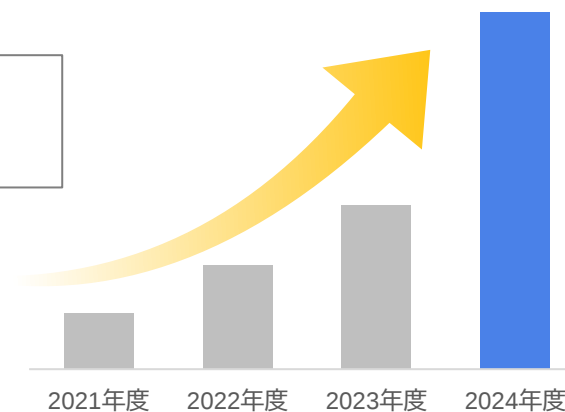
ニーズの多様化

規制緩和、健康意識の向上

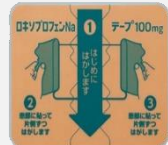
BPO各種事業で社会に貢献



APOPLUS CAREER

薬剤師紹介派遣事業が
今期は特に大きく伸長

2025年3月期

製品名	製品	発売後の進捗
リバーロキサバン錠・OD錠 10mg・15mg「バイエル」 先発品名： イグザレルト®錠・OD錠10mg・15mg		【トップシェア】 計画を大幅に 上回るペースで進捗
ロキソプロフェンNa テープ 50mg・100mg「DSEP」 先発品名： ロキソニン®テープ50mg・100mg		他社製品が先行発売が 計画通り進捗 更なるシェア獲得目指す
ヒドロキシクロロキン 硫酸塩錠200mg「DSEP」 先発品名：プラケニル®錠200mg		【トップシェア】 堅調に推移 更なるシェア獲得目指す

2026年3月期

2～3成分の 新製品発売を計画中



第一三共エスファ株式会社





第一三共エスファ株式会社

2025年4月1日に株式を追加取得し、株式保有割合は **80%**へ

	株式取得日	株式保有割合	会計上の 取り扱い	売上寄与	経常利益 寄与	純利益 寄与
第1次株式取得	2023年10月1日	30%	持分法適用会社	—	30% (営業外収益)	30%
第2次株式取得	2024年4月1日	51% (+21%取得)	連結子会社	100%	100%	51%※
第3次株式取得	2025年4月1日	80% (+29%取得)	連結子会社	100%	100%	80%※

※残りは非支配株主に帰属する当期(四半期)純利益

大幅
増配

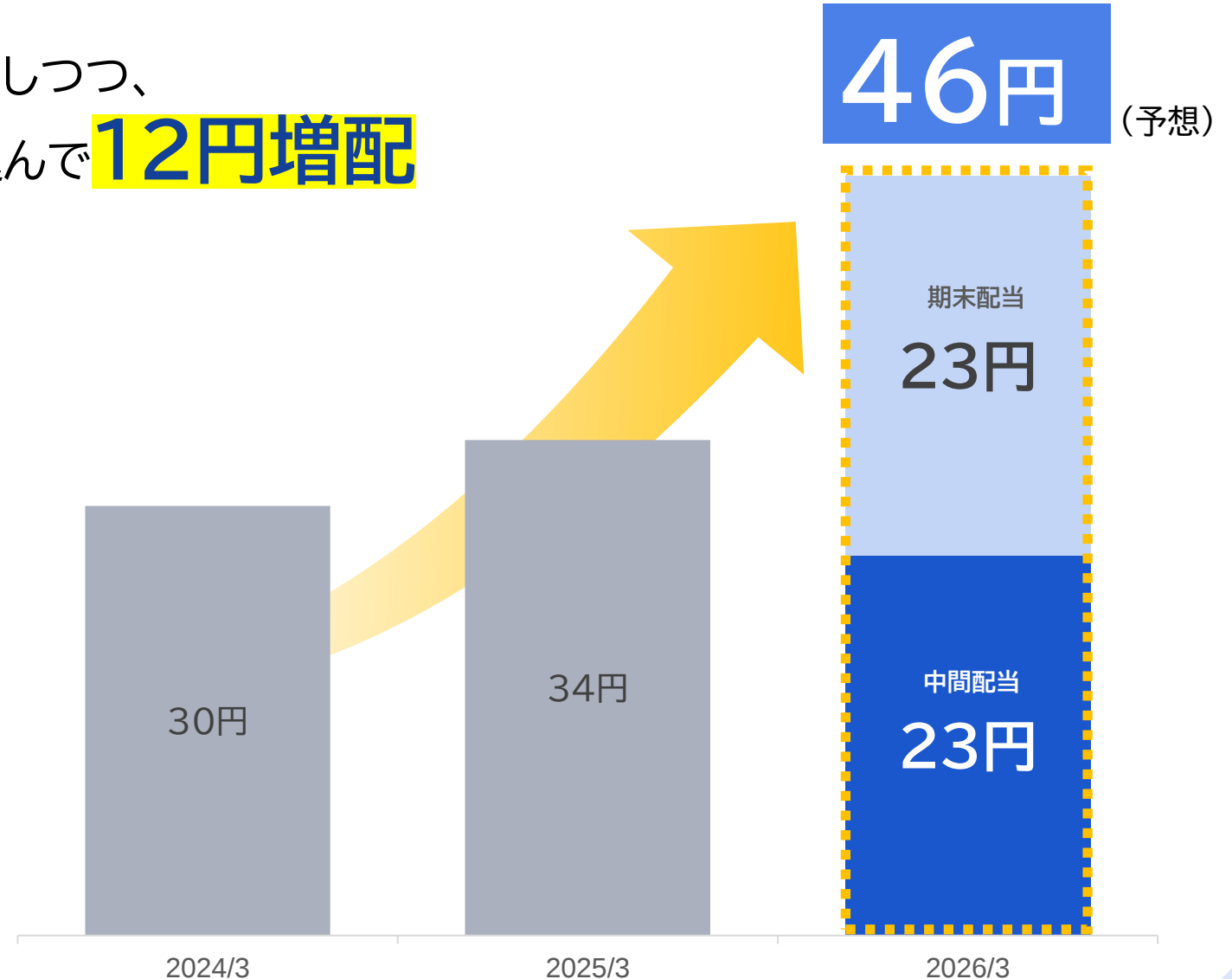
安定配当を基本方針としつつ、
来期の業績拡大を見込んで**12円増配**

2025年3月期

年間 **34円**

2026年3月期

年間 **46円**
(予想)



IV

サステナビリティ 経営の推進



自治体との連携

- 埼玉県と、**がん啓発・がん検診の受診率向上に向けた協定**を締結
- 薬局で受診率向上に向けた推進活動を実施



埼玉県 大野知事(右)とクオール株式会社 柄澤社長(左)



健康イベントへの参画

- 日本臨床腫瘍学会学術集会において、市民向けのキッズファーマシーを出展



イベントの様子(当社ブースにて調剤体験の実施)

健康経営優良法人 認定取得

- グループ会社3社が、健康経営優良法2025（大規模法人部門）に認定
- スタッフの健康増進に取り組むことで、組織の活性化や生産性向上に繋げる



切れ目ない医療



【IRお問い合わせ】

クオールホールディングス株式会社 広報部

TEL:03-6430-9060

FAX:03-5405-9012

E-mail:ir@qol-net.co.jp

お問い合わせページ:<https://www.qolhd.co.jp/inquiry/>

【免責事項】

本資料および参考資料の内容につきましては、株主・投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料に将来に対する見通しが含まれている場合がありますが、実際の業績は様々な要素により、これら見通しと大きく異なる結果となりうることもあり、確約や保証を与えるものではありませんのでご了承ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する決定は、株主・投資家の皆さまのご判断において行われますようお願いいたします。



あなたの、いちばん近くにある安心